

平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震 写真報告(日立・大洗・ひたちなか・水戸)

調査日 2011. 3. 23

作成日 2011. 3. 31

■常磐高速自動車道等の様子

常磐常道車道は地震発生により全面通行止め、その後の緊急交通路指定により緊急車両のみ通行が可能となっていた。3月16日に三郷－水戸間、21日に水戸－いわき中央間の緊急交通路指定が解除され一般車両が通行できるようになった。



常磐自動車道を三郷からいわき方面に進むと、15.5km 地点に守谷、72.8km 地点に友部サービスエリアがあり、それぞれ給油施設がある。写真は友部サービスエリア。



発災後、多くの人が給油を行ったことなどから、ガソリン等が品切れする給油所が多く見られた。また、営業中の給油所には長い給油待ちの車列ができた。



茨城県内の常磐自動車道も路面の陥没や、亀裂、段差が発生した。調査時にはまだ復旧作業が続けられていた。



既に応急修理が済んだと思われる場所も多く見られた。一般車両の通行規制は解除されたが、速度規制がされていた。

■大洗町の様子



大洗町は太平洋に面している。海水浴場、フェリー埠頭、漁港、マリーナがあり、その背後に役場や市街地が広がる。



海岸道路付近にて内陸側を見る。水は写真奥の建物にも到達していたが、その付近に古い護岸がある。信号は停電中。



港湾施設や船舶は大きな被害を受けていた。漁港やフェリー埠頭は復旧作業が進められているが、レジャーボートの集まるマリーナはまだほとんど手つかずだった。



大洗町役場付近の市街では軒近くまで水没した。右の家は倒壊していないが、屋内のものは全て取り除かれていた。



大洗町役場脇、電話ボックスのロープ位置まで水の後がある。同町 HP にこの付近の津波時の写真がある。



廃棄物の仮設置場が海岸に設置されていた。家庭からの廃棄物の他、漁具なども捨てられていた。

■ひたちなか市の様子



那珂湊港周辺、ここも津波により水に浸かった。港付近はまだ停電していた。



那珂湊港では、岸壁が海側に崩れ落ちた。ほかに岸壁の段差、路面の波打ちも各所に見られた。右奥が観光魚市場。



那珂湊港脇の漁村センターは避難所に指定されているが、1階部分はガラス中程まで水没跡があった。



県道 351 号線馬渡地区付近、津波被害のない内陸でも路面が崩れたり段差が発生したため道路が寸断されていた。



ブロック塀、石塀の倒壊による人的被害は少なかったが、倒壊は調査地の各所で見られた。今後も地震時には塀から遠ざかる啓発が必要である。



ガソリン渋滞、ガソリン等が給油所に行き渡る様になると、こうした現象は徐々に少なくなった。ただし、回復の時期には地域差があった。

■日立市の様子



会瀬町地区付近、地震による擁壁の崩壊の様子。このほか一見被害のない擁壁でも上側の地面に地割れができている場所もあった。



市民運動公園付近、日立市に限らず茨城県内各所で写真のような瓦葺き屋根の被害が見られた。



日立久慈港、津波により港湾施設や漁船などに大きな被害が出た。復旧作業は進められており港内に沈んだ網やゴミ等を台船のクレーンで回収していた。



市民運動公園にある中央体育館、地震による梁のヒビや崩れ、窓ガラスの割れ等があるため立入禁止となっていた。



大みか町地区付近、町は高い位置にあり津波による被害は無かったが、海岸付近では地面の陥没や崩れが見られた。



日立港は久慈川の河口にあたり、昭和 40 年代に港湾整備に先立って河道の付け替え(ショートカット)が行われている。写真は第 5 埠頭先端で発生した車両プールでの火災跡。

■水戸市



水戸駅は常磐線、水戸線、水郡線の駅である。調査時は駅舎及び線路復旧のため運転を見合わせていた。



地震後しばらくの間、写真の水戸駅南北自由通路も利用できなかった。この通路は3月21日に利用を再開した。



歩行者通路「ペDESTリアンデッキ」は駅北口全部と南口の一部が地震による被害のため使えなくなっていた。



水戸駅からの鉄道は復旧していないが、バス路線は機能していた。駅はバスターミナルとして人々が集まっていた。



水戸ー勝田間的那珂川鉄橋付近、地震動により線路は大きく波打つ等の被害が出た。緊急停車した特急列車も2本そのまま残されており、復旧作業がすすめられていた。



3月12日に日暮里ー取手駅、18日に取手ー土浦駅、31日に土浦ー勝田駅間が復旧。4月下旬までにいわき駅まで復旧の予定となっている。

以上